

令和元年度指定管理者運営状況検証シート

県所管課	土木部道路都市局都市整備課
------	---------------

1. 施設名等


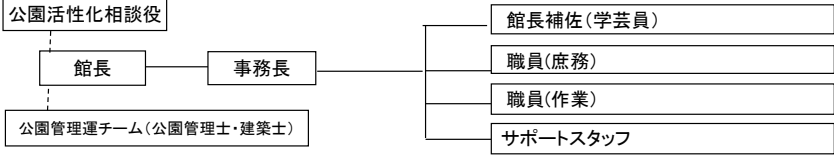
令和2年3月31日現在

施設名 (設置年月日)	道後公園 (明治21年6月26日)平成14年4月1日 リニューアルオープン)	所在地 電話 HP	愛媛県松山市道後公園 089-941-1480 http://www.dogokouen.jp/index.html
----------------	---	-----------------	--

2. 指定管理者

指定管理者名	コンソーシアムGENKI (NPO法人TIES21えひめ、(株)愛媛庭園、(株)游亀)	指定期間	平成31年4月1日 ~ 令和6年3月31日 (5年間)
--------	--	------	--------------------------------

3. 施設の概要と指定管理者が行う業務等

設置目的	県民の憩い、安らぎの場とするとともに、湯築城跡を復元、保存、活用することにより中世の歴史を学べる施設として設置	施設の外観	
施設内容	主要施設 ○管理棟(資料館)1棟 271.00㎡ ○復元武家屋敷2棟 160.88㎡ ○土塁8カ所 約120m ○土塁展示室 57.08㎡		
指定管理者が行う業務	①運営に関する業務 ②愛媛県立都市公園条例第6条の規定による公園の利用の禁止又は制限に関する業務 ③利用の許可に関する業務 ④利用に係る料金の收受に関する業務 ⑤利用者への便宜の供与に関する業務 ⑥利用の促進に関する業務 ⑦施設、附属設備及び備品の維持管理に関する業務 ⑧その他知事が定める業務		
施設の管理体制			
利用料金等	利用料金制 <input checked="" type="checkbox"/> 採用している <input type="checkbox"/> 採用していない 前年度からの変更 <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし (変更ありの場合、その内容) 令和元年10月1日付で、消費税率が8%から10%に引き上げられたことに伴う利用料金の改定		
開館日・開館時間	公園 365日 開園 (資料館 毎週月曜日-祝祭日の場合は翌日及び12月29日~1月3日 以上の日を除く) 公園 24時間開放 (資料館 開館時間 午前9時から午後5時まで)		

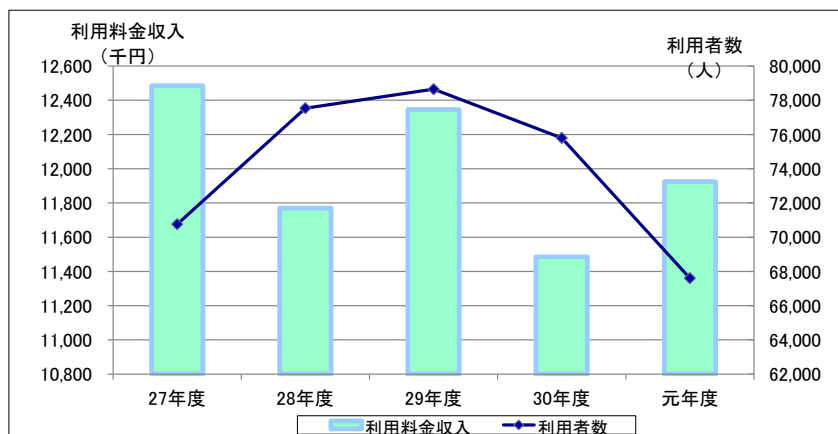
4. 指定管理業務に係る県の委託料(協定締結額)

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
県委託料(千円)	49,768	49,768	49,742	49,742	50,813	50,659

5. 施設の利用状況

(1) 施設の利用者数と利用料金収入

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	対前年度増減率
利用者数(人)	70,756	77,534	78,649	75,800	67,605	△ 10.8 %
利用料金収入(千円)	12,485	11,770	12,345	11,485	11,925	3.8 %



(2) 利用者数、利用料金収入の増減理由

対前年度増減率が±5%以上の場合、その理由

(利用者数)
新型コロナウイルスの流行で、3月の利用者数がおおよそ半減したのが大きく影響した。

(利用料金収入)

6. サービスの質向上に向けた取組み

ア) サービス向上を図る主な取組み

(○は指定管理者制度導入以降、継続的な取組み、☆は令和元年度の新たな取組み、※は利用者からの要望により実施)

令和元年度の内容	令和2年度の内容(予定含む)
<ul style="list-style-type: none"> ○道後公園文化まつり(観月祭・写真展他) ○道後公園湯築市 ○湯築城歴史塾 ○道後公園門松づくり講座 ○道後公園大清掃 ○ゲートボール大会 ○ペットマナー啓発活動 ○日本の100名城見学ツアーのための臨時開館(早朝・夕方対応) ○防災救命訓練(子供向けの防災教室)及び湯築城出前教室事業(紙芝居を使った湯築城の歴史教室を開催) ○花見特別事業「湯築の桜舞台」・「ゆづきカフェ」の開催 ○鎧・兜・市女笠や小袖の活用(記念写真用)・兜の折り紙の配布 ○観光客等リピーター誘致事業(河野一族関連者データベース作成) ○愛媛/松山ミュージアム・ストリート連絡協議会に加盟し、共同パンフレット作成やイベント開催協力 ○公園花いっぱい事業(園内の花の補植等) ○公園花だよりの作成 ○続100名城の能島城・河後森城の2城と連携する企画展の開催 ☆ガイドへのIT活用(翻訳タブレット)やAR,VRの研究 ※カルチャー教室 ※魚つかみどり大会 	<ul style="list-style-type: none"> ○道後公園文化まつり(観月祭・写真展他) ○道後公園湯築市 ○湯築城歴史塾 ○道後公園門松づくり講座 ○道後公園大清掃 ○ゲートボール大会 ○ペットマナー啓発活動 ○日本の100名城見学ツアーのための臨時開館(早朝・夕方対応) ○防災救命訓練(子供向けの防災教室)及び湯築城出前教室事業(紙芝居を使った湯築城の歴史教室を開催) ○花見特別事業「湯築の桜舞台」・「ゆづきカフェ」の開催 ○鎧・兜・市女笠や小袖の活用(記念写真用)・兜の折り紙の配布 ○観光客等リピーター誘致事業(河野一族関連者データベース作成) ○愛媛/松山ミュージアム・ストリート連絡協議会に加盟し、共同パンフレット作成やイベント開催協力 ○公園花いっぱい事業(園内の花の補植等) ○公園花だよりの作成 ○続100名城の能島城・河後森城の2城と連携する企画展の開催 ○ガイドへのIT活用やAR,VRの研究 ☆光のアートを花見や年末年始時期に開催 ※カルチャー教室 ※魚つかみどり大会

イ) 利用者からの声への対応状況(令和元年度)

利用者からの評価や苦情・要望の主な内容	利用者からの苦情・要望への主な対応状況
<p>ビデオが分かりやすかった。 ガイドさんに親切に案内してもらった。 公園がきれいで気持ちいい。 水をタダで配ってほしい。 樹木が多すぎる。剪定・伐採をしっかりとしてほしい。 木が少ない。もっと増やしてほしい。 御城印がよかった。</p>	<p>利用者からの苦情等にはできる限り、迅速に対応した。 植栽管理は、利用者の安全を優先して樹木伐採や剪定を行った。</p>

7. 令和元年度実績に係る施設の利用状況及びサービスの質向上に向けた取組みに関する確認・検証

指定管理者の自己検証	県の施設所管課の確認・検証意見
<ul style="list-style-type: none"> ・元年度は新型コロナウイルスの発生により、3月の花見事業が中止になり、3月の施設利用者がほぼ半減し、年間の利用者数が昨年を10%以上下回った。 ・湯築市は天候に恵まれ、中止もなく開催できたが、10月の観月祭は台風の接近で開催はできたが、昨年度比12%減であった。 ・海外からの来館者に対応して、翻訳タブレットを購入し対応を積極的に行ったが、年明け以降新型コロナウイルスの影響で外国人は激減した。 ・日常的な点検は、美観を維持することに努め、施設を安心・安全に利用できるよう心がけるとともに、建築物等の不具合を発見した際には、速やかにその補修と改善を図った。 ・公園の良好な衛生環境・美観の維持に心がけた。また、ボランティア清掃の団体からの要望により清掃で集めた「落葉」の集積場を園内に設置(県と協議の上)し、ゴミの減量にも取り組み、快適な環境を維持した。 ・「健康増進法の一部改正」による公園内の禁煙を図るとともに、市保健所の指導の下喫煙場所を設置した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用については、新型コロナウイルス感染症の影響により、県外旅行者の減少や団体バスの利用及び花見利用客の落ち込みにより昨年度を下回った。 ・公園内におけるイベントについては、近隣住民にも浸透し、観光客の参加も多く、定着している。観月祭では地酒の試飲販売など、新たな取組みを実施し活性化を図っている。 ・今後、増加が予想される外国人に対しては、これまでの外国語研修に加え、翻訳タブレットを活用し、外国人の満足度向上にも努めている。 ・公園利用者が安全に利用できるよう、施設の維持管理に努めたほか、日常の点検等により不具合等の早期発見に努め、改善を図っている。 ・公園の衛生環境・美観の維持については、ボランティア団体と連携・協力し、良好な状態の維持に努めている。 ・公園内の禁煙については、多数あった灰皿を撤去し、保健所の指導の下、受動喫煙の可能性が極めて低い場所だけとする対策を講じた。

8. 指定管理者制度の導入による効果と課題の検証

指定管理者制度導入後の公園利用者は、年々増加傾向ではあったが、昨年度は新型コロナウイルスの影響により利用者が減少しており、今年度も同様の傾向が続くと考えられる。こうした中、住民が安心・安全に公園を利用できるため、現場を管理している指定管理者の役割は非常に重要であり、実際にコロナ対策を図りながら、公園の利用促進や維持管理を進めている。

公園の利用促進について、指定管理者が実施するイベント等については、長年の努力により地元のイベントとして定着してきており、道後地区を訪れる観光客等も参加することで、地域の活性化に貢献している。

また、公園の維持管理においても、指定管理者の専門的な知識や技術の活用はもちろん、ボランティア団体等との連携・協力により、効率的な経費で効果を上げているが、今後、施設の老朽化が進む中においても、的確な対応が求められる。